

血管年齢指標AVI,APIの社会実装



全自動PASESA
AVE-2000Plus 片腕・座位測定



 **Shisei datum**
株式会社 志成データム
代表取締役 斎藤 之良

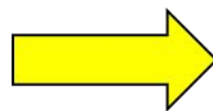
血管は「沈黙の臓器」

→病気の進行を自覚できない

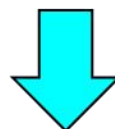
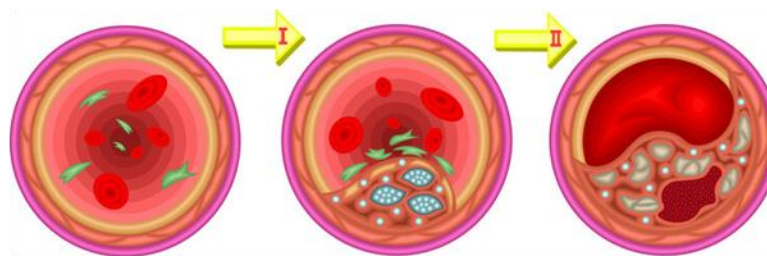
日常的な見える化が必要

生活習慣(原因)

高血圧
高血糖
脂質異常症
運動不足
喫煙
肥満
ストレス



動脈硬化の進行による
血管機能不全



臓器障害(転帰)

脳卒中
心不全
心筋梗塞
認知症
糖尿病
腎臓病

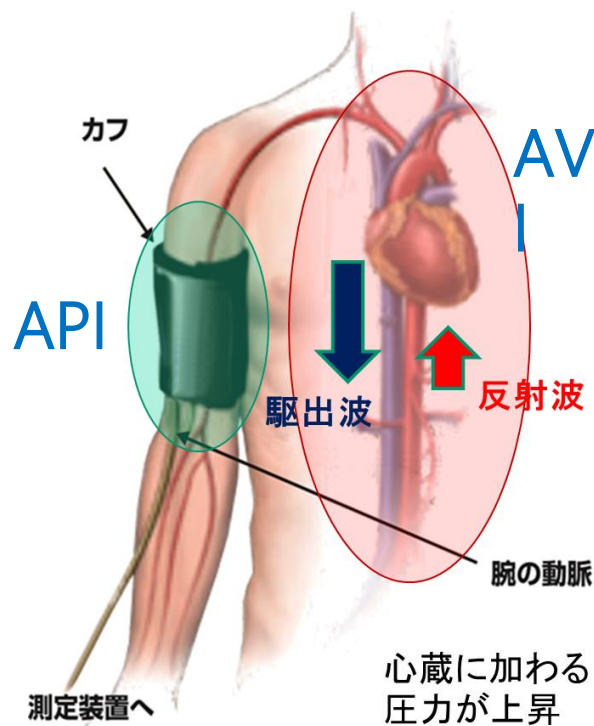
血管の評価技術が必要(1999年WHO勧告)

日常的に血管（年齢）指標を測れる血圧計PASESA

心臓病や心筋梗塞、脳卒中などの動脈硬化性疾患の他、
ストレスや睡眠、機能性食品、運動などの生活習慣とも関連する報告多数



2021年ME-BYOブランド認定



事例① 健康経営企業：職場常設による自由測定の効果（1年間）

【成果】

- ・ 2社共に血圧と血管年齢が有意に改善
- ・ 社員の70~90%が測定習慣を獲得
- ・ 月平均測定回数：約12回
- ・ 啓蒙よりフォロー体制

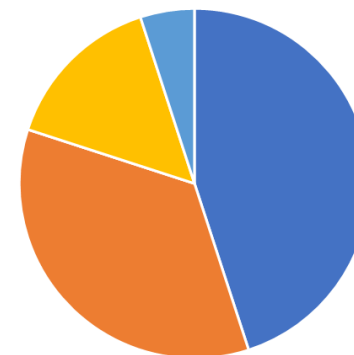


アプリMyPASESAで
血管年齢表示

	S社	U社
平均年齢	56.2	48.6
Δ 最高血圧	-4.6	-4.7
Δ AVI	-1.0	-0.6
Δ API	-1.5	-0.7
Δ 血管年齢	-4	-2.8

事後アンケート

3 継続に必要なことはどれですか？



■ A. 職場で測定。

■ B. インセンティブ。

■ C. 啓蒙活動。

■ D. フォロー体制。

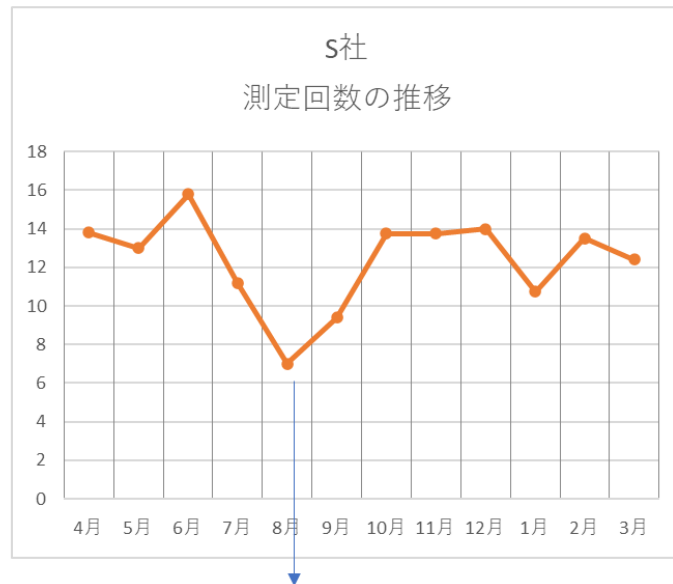
■ E. その他（ ）

啓蒙は
No THANKS

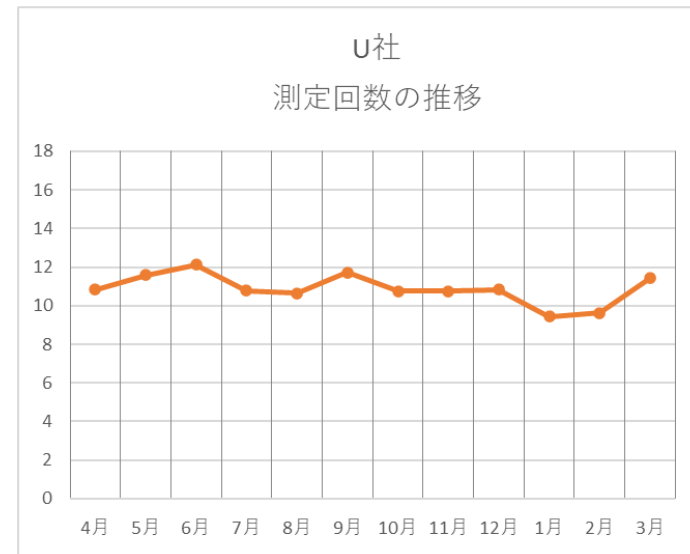
実証実験の結果①

パセーサ測定「習慣化」の獲得

平均測定回数は両社とも通年でほぼ10~12回/月を維持し「習慣化」を獲得した！



夏期の落ち込みはコロナ拡大による
在宅勤務の影響



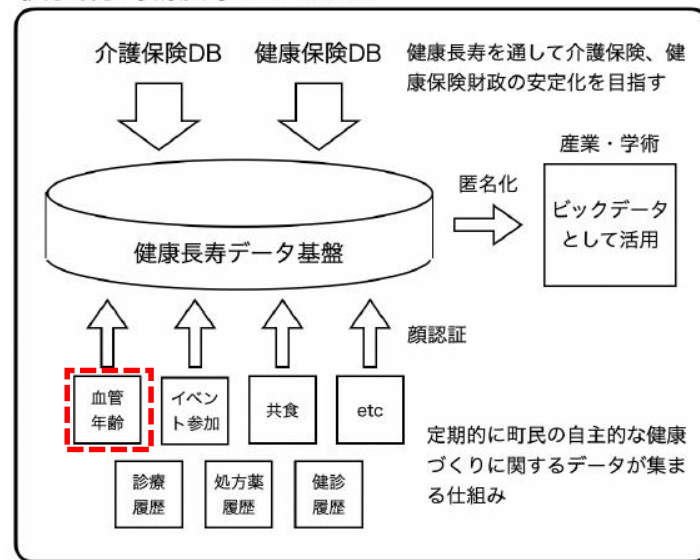
事例②【愛媛県伊方町】平均年齢76歳の超高齢化・限界集落から生まれた顔パス・キャッシュレス：デジ田甲子園全国9位

【デジタルを活用したアイデアの全体概要】

○顔認証技術を用いたキャッシュレス決済の仕組みを活用し、集落の高齢者が行う血管年齢測定や介護予防の継続的な取り組みに対し、町内で貨幣として利用可能な健康ポイントを付与し、買い物や診療所、地域巡回バスなどの顔パス利用を実現する。また、一連のデータ蓄積を通して、健康長寿プラットフォームを形成する。



伊方町発：健康長寿IKATAモデル



高齢化率 47.5% 高齢者福祉対策

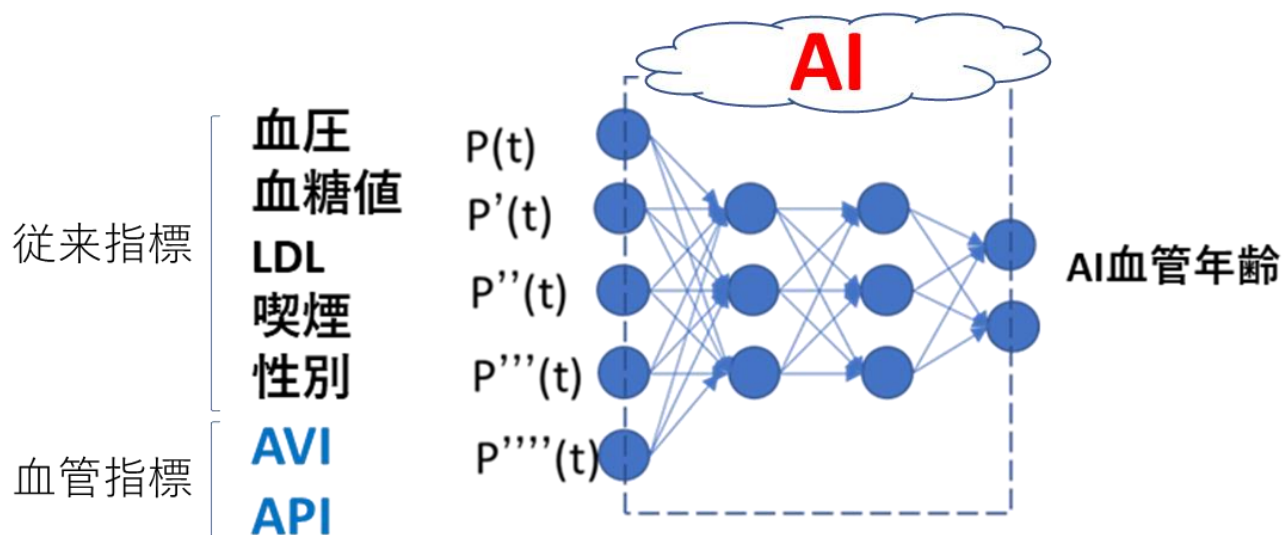


○取り組み概要

- ・顔認証決済技術を活用
- ・高齢者が行う血管年齢測定、介護予防の取り組みに健康ポイントを付与
- ・買い物、診療所、地域巡回バスなどで顔パス利用を実現
- ・一連のデータ蓄積により「健康長寿プラットフォーム」形成

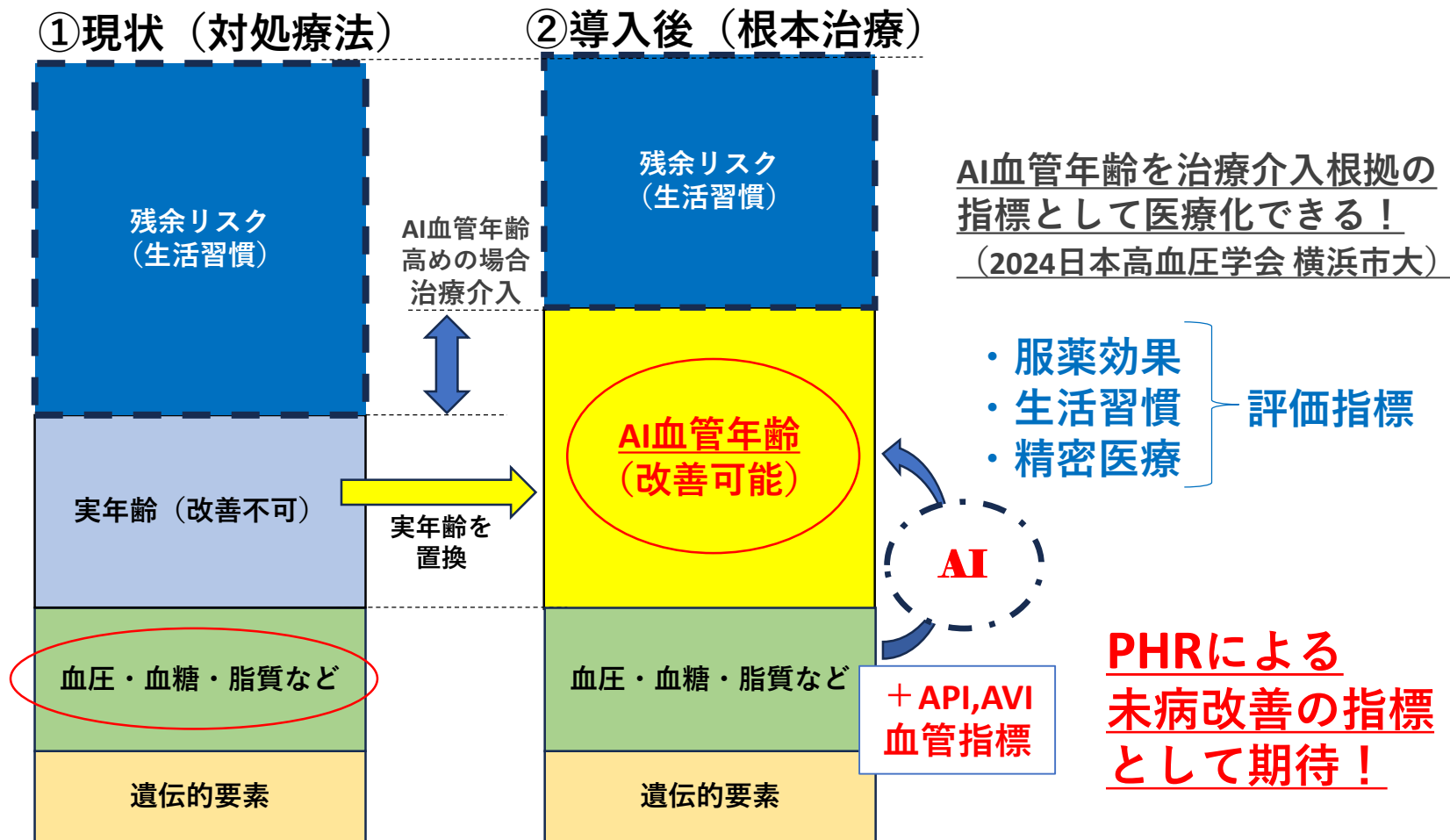
<https://www.youtube.com/watch?v=DRvSX3qpdV8>

AI血管年齢の登場



AI血管年齢の概念と有用性

心血管疾患
発症リスク



Prevent ArterioSclerosis and Enjoy Successful Aging (PASESA)
動脈硬化を予防し、「健やかに老いる」を楽しむ

貴社のビジネスにAVI,APIをご活用ください！

ご清聴ありがとうございました

